

当レポートの記載内容は、ブラックロック・グループ（以下、ブラックロック）が作成した英語版レポートを、ブラックロック・ジャパン株式会社（以下、弊社）が翻訳・編集したものです。また当資料でご紹介する各資産の見通し（米ドル建て）は、米国人投資家などおもに米ドル建てで投資を行う投資家のための見通しとしてブラックロック・グループが作成したものであり、本邦投資家など日本円建てで投資を行う投資家の皆様を対象とした見通しではありません。

BlackRock®

GLOBAL IMPACT STRATEGY

インパクトの評価・管理について



目次

投資理念とアプローチ	4
測定のフレームワーク	6
注目企業の事例	8
投資家によるインパクトへの貢献	10



Quyen Tran
Director
Director of Impact Investing



Eric Rice
Managing Director
Head of Active Equities
Impact Investing

ブラックロックの投資先企業は社会にインパクトをもたらしています。



日本で5,300戸以上の手ごろな価格の住宅を供給し、人口減少や大都市への移住に直面した地方の地域社会の再生を支援。



新興市場を中心に、85万人以上の学生に高等教育へのアクセスを提供。



ケニアで2,260万人にモバイル金融サービスを提供。



全世界で10,000の医療機関にわたり50万人以上の臨床医を時間節約のテクノロジーでサポート。



非営利団体や病院など、サイバーセキュリティ対策のサービスが行き届いておらずリスクにさらされている9,000以上の顧客を、サイバーセキュリティのリスクから保護。



電気や水道の計量、街灯やスマートシティのソリューションに使用されるスマートメーターを1,600万台以上提供。



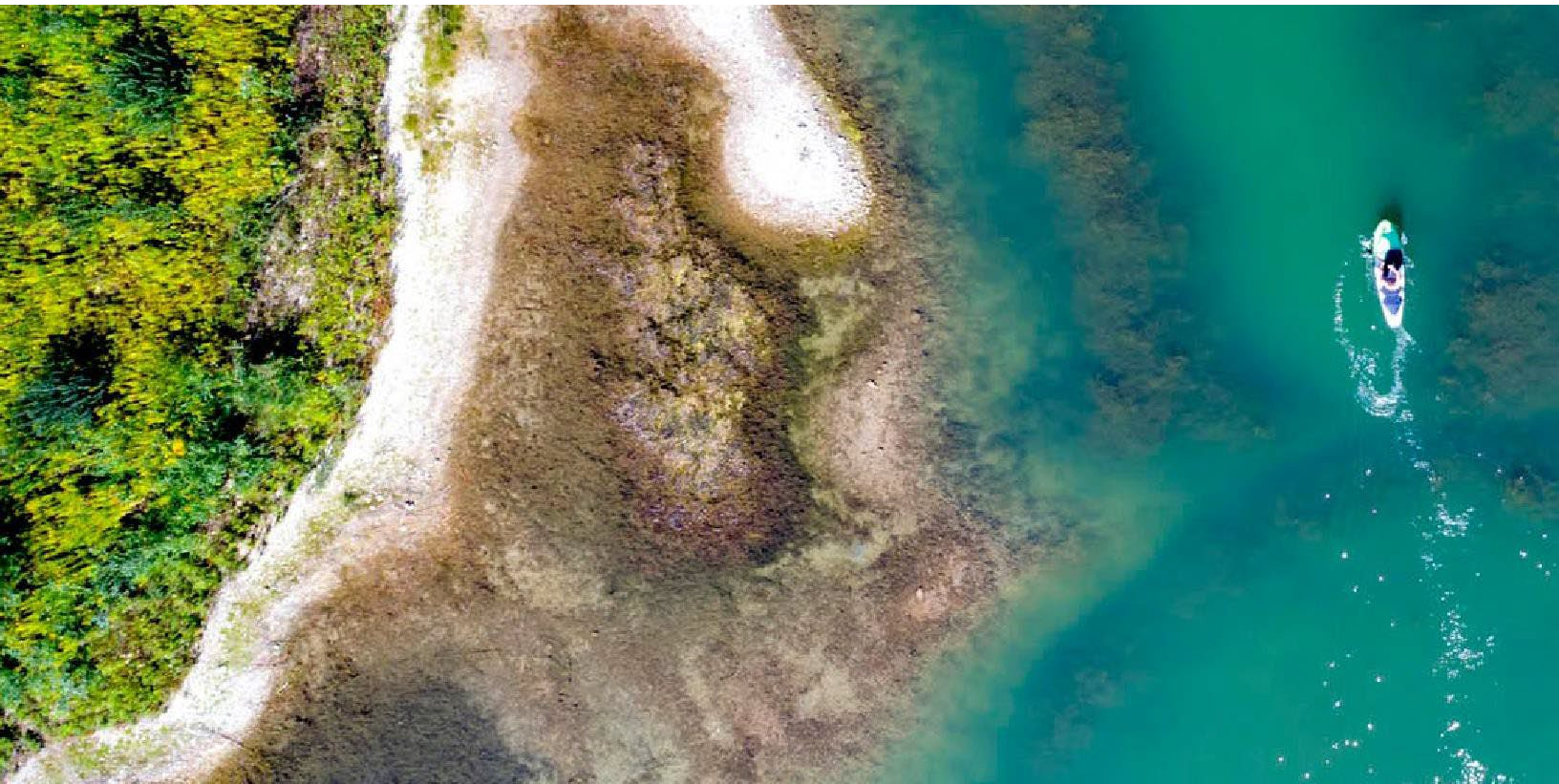
ラテンアメリカの5,500万人以上の人々にインターネット接続を提供。



インドネシアの零細、中小企業（MSME）と農村部のコミュニティ向けに、5億3,310万件の取引やローンを提供。

上記は、ブラックロックの投資先企業による、インパクトをもたらす革新的な取り組みのごく一部です。

例示のみを目的としています。2020年6月30日現在の保有状況に基づき、インパクトの多様性を示すため複数企業の事例をあげています。企業の測定データは、2019年からの活動を表しています。



ブラックロックの投資理念とアプローチ

ブラックロックは、インパクトの評価・管理（IMM）にあたり、ベスト・プラクティス方式を導入しています。

1

透明性が高く、再現可能かつ監査可能なIMMプロセスの確立を目指しています。このアプローチには、ブラックロックの責任を明確にする仕組みや、ブラックロックのインパクト投資論とセオリー・オブ・チェンジ（変化の理論）に対するフィードバックを確実にする仕組み、そして長期的にこの手法を改善する仕組みが備わっており、多くのメリットがあると考えられます。

2

投資プロセス全体にインパクト分析を組み入れています。投資前に暫定的なインパクト評価指標を特定するといったことも、その一例です。

3

業界の主要なフレームワークを可能な限り取り入れ、且つブラックロックの投資プロセスに沿った適切なものを採用します。このアプローチによって、様々な投資におけるインパクトを長期的に測定、比較することが容易になります。また、業界内で様々な手法が乱立することの回避にもつながります。



第三者による業界の主要フレームワークを採用することで、信頼性の高い多面的なIMMフレームワークをお客様に提供することができます。

インパクト・マネジメント・プロジェクト（IMP）が提唱する、インパクトの5つの側面

グローバル・インパクト投資ネットワーク（GIIN）が開発した測定ツール“IRIS+”とタクソノミー

国連による持続可能な開発目標（SDGs）とターゲット

国際開発公社（IFC）によるインパクト投資の運用原則

重要なことは、インパクト評価はインパクト投資家にとって不可欠であり、困難な課題を解決したいというブラックロックの願いが、このフレームワークの使い方に反映されているということです。ブラック

ロックは投資先企業をもたらすポジティブなインパクトの評価に加え、（1）時間の経過に伴うインパクトのセオリー・オブ・チェンジを把握し、（2）投資先企業の「付加性」と、インパクト投資家としてのブラックロックの貢献による「付加性」を評価し、（3）「ネット・インパクト」を評価することを目指しています。ネット・インパクトの評価においてはIMPが提唱するインパクトの5つの側面のうち“リスク・ダイメンション”に着目し、ESG分析とネガティブな外部性をリサーチに組み込み、企業との対話を通じて評価を行います。

原則として、問題兵器に関与する企業や国連グローバル・コンパクトに違反する企業などの特定分野への投資は行いません。

ブラックロックのIMM手法は、時間の経過にともない進化すると考えています。また、全てのビジネスモデルに適用できる、標準化された主要指標はまだないことも認識しています。そのような場合には、ブラックロックのインパクト投資論とセオリー・オブ・チェンジを反映させた独自の評価指標を作成し、また業界の意見を代表するパートナーにフィードバックを行う中で、ブラックロックが学んだ教訓を共有しインパクト投資のベスト・プラクティスを発展させていきます。



「付加性」とインパクト

インパクトを創出する企業として認められるためには、自社の製品・サービスの多くが競合他社や政府などが満たすことができないような顧客のニーズに応え、真のインパクトを生み出す必要があります。この考え方を「付加性」と言います。付加性は、主に先端技術や革新的なビジネスモデルの採用、恵まれない人々への製品・サービスの提供によってもたらされます。

評価フレームワークに関する注記

IMPが提唱するインパクトの5つの側面は、様々なタイプの企業のインパクトを評価する際の一貫したフレームワークです。この枠組みはグローバル・インパクト投資ネットワーク（GIIN）の“IRIS+”システムにも組み込まれており、次のセクションで取り上げる企業にも適用しています。具体的には、インパクト評価指標に“IRIS+ Core Metrics Set”を採用しています（タクソミー・コードと併せて「注目企業の事例紹介」セクションに記載）。また、投資先企業について国連の持続可能な開発目標（SDGs）とターゲットへのマッピングを行い、投資プロセスでは国際開発公社（IFC）のインパクト投資の運用原則（Operating Principles for Impact Management）を遵守しています。

IMPACT MANAGEMENT PROJECT

IMPでは、インパクトは5つの側面（What、Who、How Much、Contribution、Risk）から評価できると考えています。その考えはグローバルにコンセンサスを得ています。

インパクトの側面

各側面における論点

What

どのような結果（Outcome）が生じているか？ その結果はポジティブなものかネガティブなものか？ その結果は、それを享受した人々（もしくは地球環境）にとってどの程度重要か？

Who

誰が結果を享受するのか？

その結果を享受するステークホルダーは、どれくらい不自由でサービスが行き届いていない状況にあるか？

How much

結果の大きさはどの程度か—規模、深度、期間？

Contribution

その変化が企業による貢献がなくても必然的に起きた可能性はあるか？

Risk

期待した通りのインパクトが生じなかった場合、人々や地球環境にどのようなリスクがあるか？



注目企業の事例紹介

Bank Rakyatは、成人人口の約半数が銀行サービスを受けられない状態にある途上国において、マイクロファイナンス（少額融資）と金融サービスを提供している大手銀行です。マイクロファイナンスの他には、貯蓄商品や保険商品、金融知識の教育プログラムなどのサービスも提供しています。

8 DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH



8.3 生産活動、緩やかな雇用の創出、起業家精神、創造性、イノベーションを支援する開発指向の政策を推進し、金融サービスへのアクセスを通じて、零細、中小企業の勃興と成長を奨励する。

10 REDUCED INEQUALITIES



10.1 2030年までに、人口の下位40%の所得成長を全体の平均よりも高い率で漸進的に達成し、維持すること。

出所：ブラックロックがBank Rakyatの2019 Sustainability Report のデータをもとに作成（<https://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/>）。本資料で言及する企業名は例示のみを目的としており、インパクト評価の枠組みの説明を意図して使用しています。投資アドバイスや企業の投資推奨ではありません。

What

戦略的目標

これまで十分なサービスを受けられなかった人々が、信頼できる金融サービスにアクセスし、利用できるようにする。

IRIS+ コアとなる評価指標

IRIS+ 対象指標項目

地域コミュニティ向けのオンラインバンキングサービスを通じた5億3010万件の顧客取引と中小零細企業（MSME）および地方のコミュニティ向け融資。

顧客取引件数

PI5184

Who

ステークホルダー

正規の金融サービスにアクセスできない低所得者、MSME、地方のコミュニティが顧客。ステークホルダーは約6,000ある有島全体に散らばっており、物理的に離れていることで、正規の金融サービスを利用することがより困難になっている。

対象となるステークホルダー

OD7212

ステークホルダー：
人口動態
社会経済的状況
背景
地理的状況

PD5752

PD2541

PD6384

PD6424

How much

規模

MSME向け融資プログラムを通じた400万の法人顧客。

法人顧客：零細企業

PI9327

中小企業

PI4940

地方のコミュニティ向けの融資プログラムを通じた480万人の顧客。

個人顧客：地方在住

PI1190

地域コミュニティ向けのブランチレス・バンキングサービスを通じた5億2130万件の顧客取引。

顧客取引件数

PI5184

深度

MSME顧客は前年比125,035社増加。

法人顧客：MSME

PI9327
PI4940

農村コミュニティの顧客は前年比36万9,096人増加。

個人顧客：地方

PI1190

地域コミュニティ向け取引は前年比1億4260万件増加。

顧客取引

PI5184

Contribution

企業としての貢献

Bank Rakyat (BRI) は、これまで十分な金融サービスを受けられなかったMSME、個人、地方コミュニティへのマイクロレンディングを通じて付加性を提供している。また、BRILinkのエージェント・ネットワーク（BRIが有するネットワークは競合他社の4倍におよぶ規模）は国内の辺境地域までをカバーし、遠隔地域に対して金融サービスを提供している。

Risk

インパクトに対するリスク

ブラックロックは、インドネシア政府の部分所有によって発生するリスクと公共政策によるリスクは誤って認識され、事実が誇張されているとみている。より重要な事実として押さえておくべき点は、銀行サービスを受けられない人々に融資するというBank Rakyatのミッションをインドネシア政府が支持していること。

投資家によるインパクトへの貢献

ブラックロックでは、インパクトを生み出すために、上場株式投資に次の5つのメカニズムを組み込んでいます。

1

長期投資、オーナーシップ
のマインドセットを持つこと

2

インパクトを創出する企業
が上場する際、適切な出
口戦略を立てられるよう、
より良いマーケット環境を
つくること

3

インパクトを創出する企業
が追加の資金調達を必要
とする際に応じること

4

企業が持続的にインパクト
を生み出せるよう対話をす
ること

5

過小評価されているインパ
クトを創出する企業の認知
度を高めること

2020年のこれまでの進展：

複数の新規株式公開（IPO）に参加し、プライベート・エクイティからの責任あるエグジットを目指している企業がインパクト創出に妥協することないよう支援しました。

過去に例を見ないほど市場のボラティリティが高まる中で、質の高いインパクトを創出する企業に忍耐強く資本を提供できるよう備えています。

新しいエンゲージメント戦略「Impact Engagement 2.0」を開始しました。同戦略では、投資先企業との対話を通じて、製品・サービスがインパクトをもたらすという新しい方法を模索しています。

Impact Engagement 2.0 を通じたインパクトの創出

ブラックロックは、アジア全域とオーストラリアで幅広く事業を展開する人材派遣会社に投資しています。この会社はオンライン限定の研修サービスも提供しており、学生の参加を促して就職希望者のスキル向上も支援する新しいコンテンツが強みであると考えます。また、ブラックロックはオンライン教育とテクノロジー研修を提供する米国企業2社にも投資しています。この2社は、サービス提供地域の拡大を目指しています。

ブラックロックは、こうした企業を引き合わせることで、彼らが自社のインパクトを高めつつ市場を拡大する戦略的コラボレーションの機会を見出し、将来の収益見通しを向上させていくための支援を行っています。

重要事項

当資料は、ブラックロック・グループ(以下、ブラックロック)が作成した英語版レポートを、ブラックロック・ジャパン株式会社(以下、弊社)が参考情報として提供するものです。当資料は情報提供を目的として作成されたものであり、特定の金融商品取引の勧誘や、投資資産やセクター・アロケーション等の推奨を目的とするものではありません。本邦投資家の皆様の知識、経験、リスク許容度、財産の状況及び金融商品取引契約を締結する目的等を勘案したものではありません。また、ブラックロック全体、ないし弊社が設定・運用するファンドにおける投資判断と当資料の見解とは必ずしも一致するものではありません。当資料は、米ドル建資産を中心としたグローバル投資において、主に米ドル建で各資産の評価を行った上で書かれたものです。日本の投資家が円から、外貨建資産に投資を行う場合に受ける為替変動の影響は考慮されていないことにご注意の上、参考情報としてご覧ください。グローバルの投資家向けに作成されており、日本の投資家には当てはまらない内容を含みます。

記載内容はブラックロック及び弊社が信頼できると判断した資料・データ等により作成しましたが、その正確性および完全性について保証するものではありません。各種情報は過去のもの又は見通しであり、今後の運用成果を保証するものではなく、本情報を利用したことによって生じた損失等についてブラックロック及び弊社はその責任を負うものではありません。記載内容の市況や見通しは作成日現在のブラックロックの見解であり、今後の経済動向や市場環境の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し予告なく変更される可能性があります。またブラックロックの見解、あるいはブラックロックが設定・運用するファンドにおける投資判断と必ずしも一致するものではありません。

投資リスク・手数料について

・投資信託に係るリスクについて

投資信託の基準価額は、組入れられている有価証券の値動きの他、為替変動による影響を受けます。これらの信託財産の運用により生じた損益はすべて投資者の皆様に帰属します。したがって、投資信託は元金および元金からの収益の確保が保証されているものではなく、基準価額の下落により投資者は損失を被り、元金を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては各投資信託の投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

・手数料について

弊社が運用する公募投資信託については、ご投資いただくお客さまに以下の費用をご負担いただきます。

■ 直接ご負担いただく費用

お申込み手数料： 上限4.40%（税抜 4.0%）

解約手数料： ありません。

信託財産留保額： ファンドによっては、信託財産留保額がかかる場合もあります。

投資信託説明書（交付目論見書）および目論見書補完書面の内容をご確認ください。

■ 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

信託報酬： 上限2.2933%（税抜 2.228%）程度

■ その他の費用

上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。（その他の費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。）

※リスク及び手数料の詳細につきましては、投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。

お問い合わせ先

ブラックロック・ジャパン株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第375号

加入協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 投資信託協会、日本証券業協会、

一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

ホームページ <http://www.blackrock.com/jp/>

〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号 丸の内トラストタワー本館

BlackRock